



あ

い

の

Vol.19

平成26年4月発行

【屋久島】

*Contents*

- ・眼科外来
- ・あいの認知症プロジェクト No.4
- ・あいのまちの保健室

### ～当院の白内障手術について～

平成20年の4月に藍野病院眼科は常勤体制となり、その年の6月に当院での白内障手術が始まりました。白内障手術装置インフィニティ・ツァイス顕微鏡 Lumera Tを擁しています。

現在、月曜日の午後に手術を行っています。

当院の白内障手術は、全て入院手術です。片眼の手術に当たり、3泊4日の入院を原則としています。月曜日朝に入院していただき、同日の午後に手術を行います。術後感染の発生リスクが最も高いとされる手術からの48時間を、連日診察を受けつつ院内で過ごしていただくと、水曜日夕方になります。

そこからさらに1泊していただいて、術後3日目の木曜日朝にもう一度診察の上、ご退院いただく流れです。全身麻酔での手術となる場合には、前の週の木曜日からご入院いただくため、7泊8日の入院となります。

当院では、認知症をはじめ精神科疾患を抱える方々の白内障手術を積極的に行っています。医師、看護師をはじめ当院のスタッフが精神科疾患のエキスパートであり、そこからの絶大な協力が、特殊な状況下の白内障手術を可能にしています。

入院中の精神症状に対応し、術後の創部安静・清潔保持のために対処していただくことができるからです。また、全身状態や眼周辺部の疾患については、内科・各科からの手厚いサポートがあります。さらに、全身麻酔の必要な場合、麻酔科医師が共に、難症例に取り組んでくださっています。

認知症や、そのほかの精神科疾患のある方におかれては、白内障が極度に進行するまで、発見されないことが多くあります。過熟白内障の頻度が高く、また、自傷行為によって、水晶体支持組織が損傷されている場合もあります。このようなケースでは、大きな切開やたくさんの縫合が必要とされる術式が選択されることがあります。



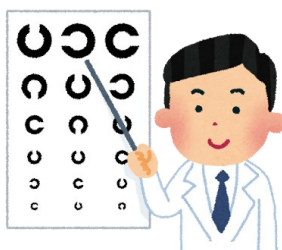
わかばやし りょうこ

眼科部長 若林 亮子



現在の白内障手術の主流は小切開手術で、ほとんど縫合を必要としませんが、私自身は、眼内レンズが世に出る以前の水晶体全摘術の時代に眼科医師となり、レジデント期間におよそ100例の水晶体全摘術を経験したため、技術的にも、このようなケースに対応できています。

常勤体制となるはるか以前から、大阪医科大学より非常勤の先生方が、当院の眼科診療にご尽力なさっておられました。その体制は、現在も続いていて、大阪医科大学の医局人事のもとに、非常勤の先生方が、外来診療をご担当くださっています。大阪医科大学とその関連病院の連携に支えられて、日々の診療を行っています。



この3月から、視能訓練士の常勤体制・週前半の視能訓練士2人体制が実現しました。このことにも力を得て、チーム医療の強みを最大限生かし、より充実した診療内容としていきます。

## あいの認知症プロジェクト No.4 ～①非薬物療法～

非薬物療法とは、薬を使わず専門職が関わることにより、認知症がある方の精神的な安定をはかろうとするものです。その中に、昔を思い出す回想法やレクリエーション療法、音楽療法、園芸療法などがあります。

現在《非薬物療法》のワーキンググループでは、ダイバーショナルセラピー（DT）・園芸療法を取り入れ、高齢者が精神的・身体的・社会的に適応力を高め、生活の中に満足と自信を取り戻すことを目的に活動しています。



ダイバーショナルセラピー（DT）では、認知症病棟4病棟合同での行事を2ヶ月に1回のペースで行っています。のど自慢大会や病棟対抗運動会などを実施し、他病棟の患者さんやスタッフと交流したり、他患者さんとの競争の中で喜びやくやしきなどの感情を引き出すことができるような関わりを持っています。

園芸療法では、病院の敷地内に約60㎡の畑を設け、そこで野菜や花を育てています。植物は身近なもので季節感もあり、自分達が植えて育てたものを収穫し、飾る、調理する、食べる、分けることで、自分達の作業の成果を実感する事ができています。また、畑仕事については、患者さんから助言をいただく事もあります。

うまくいかないこともあります。日常の関わりや、楽しいと感じてもらえるような環境を整え、これからも患者さんと一緒に活動していきたいと思っています。



## あいのまちの保健室

あいのまちの保健室は、おかげさまを持ちまして今年で11回目になります。毎年大勢の方にお越しただいており大変嬉しく思っております。あいのまちの保健室では、毎年テーマを決めており、

今年は「はっらっ長寿をめざして」をテーマに取り組みます。

当日は認知症認定看護師、認知症ケア専門士を中心に各専門職が藍野病院ならではの役立つ情報をお伝えできればと考えております。

あいのまちの保健室は、職員が総出で企画・運営を行っています。

保健師による身体計測・健康相談から始まり、それぞれ専門職による相談コーナーや体操、足浴などにも参加いただけます。また、好評により今年も認知症サポーター養成講座を開催いたします。1時間ほどの講習を受けていただきますと認知症サポーターになることができます。

講座終了後には認知症サポーターの証であるオレンジリングをお渡しさせていただきます。皆様の参加をお待ちしております。

★日程 平成26年5月17日（土）、18日（日）

★時間 午前10時～午後3時まで

★内容 身体測定、健康相談、足指力測定、食事相談、お薬相談（お薬手帳をご持参下さい）、お口の悩み・口腔ケア相談、健脚チェック、いきいき体操、ストレスチェックと相談、レントゲン検査各種紹介、認知症ケア相談、生活相談（介護保険など）

### ★5/17（土）認知症サポーター養成講座を開催

当院6階研修室で、午前11時から12時まで行います。  
どなたでも参加いただけます。

この2日間に限り、特別に当院の栄養士が考えた血管性認知症予防メニューをご用意します。  
（藍野病院地下1階 11:00～ 600円・数量限定）



### お問い合わせ

TEL:072-627-7611（代） 入院のご相談は  
FAX:072-627-3627 「地域医療連携室」まで